

2022年1月26日

学 長 殿

主 査 岩本博幸

学位論文審査及び最終試験の結果の要旨に  
ついて（報告）

2021年12月17日付けで依頼されました下記の者の学位論文審査及び最終試験の結果の要旨を別紙1及び別紙2のとおり報告いたします。

記

専 攻 畜産科学専攻（博士後期課程、畜産衛生学位プログラム）

氏 名 Athambawa Mohamed Jiffry

(別紙1)

学位論文審査の結果の要旨	
専攻	畜産科学専攻 (博士後期課程)
氏名	Athambawa Mohamed Jiffry
審査委員署名	主査 岩本 博幸 副査 料野 拓 副査 ACOSTA TOMAS 副査 窪田 こと子
題目	Socio-economics and epidemiological study on foot and mouth disease control in Sri Lanka (スリランカにおける口蹄疫コントロールの社会経済疫学的研究)
審査結果の要旨 (1,000字程度)	

スリランカでは、家畜が農村経済に不可欠な役割を演じている。口蹄疫は伝染力が強く、その発生は農村社会に多大な経済的影響を与える。本調査の目的は口蹄疫の感染拡大の背景にある農家行動の特徴を明らかにし、スリランカにおける口蹄疫制御の効果的な戦略に資する提言を行うことにある。

具体的には、次の3つが研究課題となる。研究課題1は、口蹄疫に関する農家の知識・態度・実践（KAP）の特徴を分析し、KAP水準に及ぼす要因を明らかにすること。研究課題2は、口蹄疫ワクチンに対する農家のワクチン接種行動を規定する要因を明らかにすること。研究課題3は、口蹄疫対策に関して現地農家に定着する習慣的行動を明らかにすることである。

2019年9月に、スリランカ東部州で社会疫学調査を実施した。調査農家数は180戸である。東部州は口蹄疫が毎年発生し、その影響が大きい地域である。

研究課題1では、口蹄疫に関する5段階で評価した知識・態度・実践（KAP）のスコアに対して、農家の教育レベル・農業経験年数・家畜飼育講習会への参加はKAPの水準に正の影響を与えていた。口蹄疫制御のために農家のKAP水準を向上させることは必須であり、そのための農家向けの教育機会提供の強化の必要性が示された。

研究課題2では、農家の口蹄疫ワクチン接種行動に与える要因をプロビット回帰モデルなどから明らかにした。その要因としては家畜飼養頭数、農業経験年数、口蹄疫知識スコアなどがプラスの影響を与えていることが明らかとなった。現状では、地域特性を考慮しない一律の口蹄疫ワクチン接種が行われているが、地域の人種や農家特性などを考慮することで、接種率が向上することが示された。

研究課題3では、テキストマイニングの手法を用いて、口蹄疫の治療と予防に関する農家行動を分析した。「Engine oil」「Salt water」「Dry fish」などの言葉が口蹄疫対策と強く共起していることが明らかとなった。調査地域では口蹄疫が発生しているが、社会に埋め込まれた農家行動を変えることで、口蹄疫対策が効果的に実施できる可能性が示された。

本研究は、スリランカでの実態調査を踏まえた、疫学と経済分析を融合させた興味深い研究であり、分析結果に基づき、農家向け家畜飼育プログラムの改善点や、口蹄疫ワクチン接種率の向上のための具体的な提言などを導いている。これらは、口蹄疫が発生する他のアジア途上国への参考にもなるもので、研究成果の社会的意義も大きい。

以上について、審査委員全員一致で本論文が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程の学位論文として十分価値があると認めた。

学位論文の基礎となる学術論文

- 1) 題 目: Socio-economic and epidemiological study on foot and mouth disease control in Sri Lanka  
著 者 名: Athambawa M. J.、 Kubota S. and Kono H.  
学術雑誌名: Tropical Animal Health and Production  
(巻・号・頁) (53・88・pp.1-8)  
発行年月: 2021年1月
  
- 2) 題 目: Determinants of Dairy Farmers' Knowledge、 Attitudes and Practices Regarding Foot and Mouth Disease in Eastern Province、 Sri Lanka  
著 者 名: Athambawa M. J.、 Kubota S. and Kono H.  
学術雑誌名: Journal of Agricultural Development Studies  
(巻・号・頁) (32・2・pp.17-22)  
発行年月: 2021年12月

(別紙2)

最終試験の結果の要旨	
専攻	畜産科学専攻 (博士後期課程)
氏名	Athambawa Mohamed Jiffry
審査委員署名	主査 岩本 博青 副査 料野 拓 副査 ACOSTA TOMAS 副査 皇田 文子
実施年月日	令和3年12月23日
試験方法 (該当のものを○で 囲むこと)	<input checked="" type="radio"/> 口頭・筆記
要 旨	
<p>主査および副査の4名は、学位申請者に対し、帯広畜産大学総合研究棟I号館E2204/2205室において、学位申請者本人に口頭発表による学位論文内容の説明を行わせ、その内容について質疑応答を行った。また、関連する専門知識について口頭により試問を行った。</p> <p>その結果、学位申請者が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程の修了者としてふさわしい学力および見識を有すると判断し、博士(畜産衛生学)の学位を授与するに値すると判断した。</p>	